

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです

2017年度後援会会長就任あいさつ



法政大学後援会会長 中和夫

平素より、皆さまには後援会活動に対しまして、ご理解ならびにご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

6月3日(土)に市ヶ谷キャンパスの薩埵ホールで開催された法政大学後援会総会にて、2017年度会長に推挙され、1年間皆さまと共に学生と大学への支援活動のお手伝いをさせていただくこととなりました。既に皆さまにも入会いただいている後援会は首都圏並びに北海道から沖縄までの全国36支部で構成され、その会員数は約2万9000人となっています。

法政大学は、昨年制定されました大学憲章「自由を生き抜く実践知」にも書かれており、「権利の意識にめざめ、法律の知識を求め多くの市井の人びとのために、無名の若者たちによって設立」されました。法政大学後援会も、戦後間もない1947年6月、疲弊している社会の中で学生ならびに大学を支援するために、無名の父母たちが自らの手で立ち上げた組織です。

そして本年度は、歴代後援会活動にご尽力いただいている皆さまのおかげで、設立70周年を迎えることができました。これからも会則で定めたとおり、大学の教育方針に則り、教育事業ならびに課外活動を積極的に支援してまいります。そして引き続き、大学の卒業生組織である「法政大学校友会」の皆さま方との交流や親睦を深め、後援会活動のさらなる活性化を図ってまいります。

法政ファミリーの一員である皆さまには、「新入生父母の集い」や「父母懇談会」などの行事に加え、広報誌『HOSEI』や後援会ウェブサイトを通じて、さまざまな情報を発信していきます。

最後になりましたが、改めましてこれからも後援会活動へのご理解ならびにご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

会長退任にあたって



2016年度会長 祖父江一仁

後援会の皆さまには平素より後援会活動にご協力いただき、ありがとうございます。

このたび後援会会長の任期を終え、後援会総会において無事に次年度の役員に「伝統の禪(たすき)」をつなぐことができました。

法政大学は学生一人一人の挑戦を応援してくられる大学です。建学から137年に及ぶ長い歴史を経て、受け継がれてきた「自由と進歩」の精神があります。法政大学が掲げる大学憲章にある「自由を生き抜く実践知」は社会との関わりを通じて「自由に考え主体的に行動する力」や「社会や人のために考え行動する力」を持った学生を輩出することを目指しています。現在、HOSEI 2030というビジョンの下、田中優子総長が先導役となり法政大学は大きく変革しています。後援会はブランディング推進、ダイバーシティ化推進、法政スポーツ強化などにおいて、法政大学が目指すところに注力し、学生が思い描く理想の未来を具現化するために、学生生活の内容と質が少しでも向上するよう大学を支援してきました。今後、法政大学がさらに発展するためには、全国レベルで後援会や校友会の組織力を最大限生かし、大学、後援会、校友会の三位一体で法政ファミリーの絆を深める必要があります。

2017年は法政大学後援会の設立70年の節目に当たる年です。70年という歳月の重みを感じ

写真で見る祖父江会長の1年間



1 2016年6月4日(土) 薩埵ホールにて2016年度総会。小林前会長より禪(たすき)を引き継ぎあいさつ 2 6月4日(土) 後援会総会後、新運営委員との集合写真 3 6月30日(木) 九段校舎にて常任委員・参与と後援会運営委員との懇談会 4 10月16日(日) 小金井キャンパスにて首都圏父母懇談会 5 11月12日(土) スカイホールにて支部長会議 6 11月12日(土) 外濠校舎にて副学長・学部長・後援会役員懇談会 7 11月30日(水) ボアソナード・タワーにて総長学内理事・後援会運営委員との懇談会 8 2017年1月28日(土) スカイホールでの公認会計士試験合格祝賀会にて後援会賞授与 9 3月4日(土) 幹事会・後援会賞表彰 10 6月3日(土) 2017年度総会終了後、スカイホール前にて中和夫新会長に次を託し固く握手を交わす

■ 後援会ウェブサイトのご案内

<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。ぜひ一度ご覧になってみてください。



■ 「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。東京六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げていきましょう。配信をご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録するメールアドレスをお送りください。 koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp



体育会応援 33 【ラクロス部】 親からのメッセージ



永野守 (真成/スポーツ健康学部)

ラクロスは1チーム10人で戦うスポーツです。選手は先端にネットが付いた金属製のクロスを持ち、防具としてヘルメットやショルダーなどを装着します。クロスを駆使してゴム製のボールを運び、相手のゴールへシュートを打って、点を取り合います。

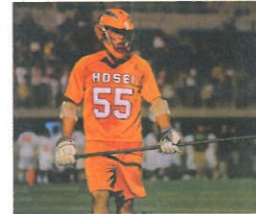
息子の真成が所属する男子ラクロス部「PHOENIX」は、部員数が100人を超える大所帯。創立は1990年で、第1体育会に準加盟しています。1〜4部で41チームが属する関東学生ラクロスリーグで、創立2年目にして1部リーグ(上位12チーム)へと昇格。2013年には、初めてファイナル4に進出しました。

真成は、バルセロナオリンピックの柔道71kg級で金メダルを獲得した古賀稔彦氏の道場「古賀塾」の1期生として、小学校1年の時から柔道を始め、中学と高校では柔道部の主将を務めました。法政二高時代は、強豪校が多い神奈川県で49年ぶりに関東大会出場を決め、みんなが感動で号泣したことを鮮明に覚えています。

理由は三つ。選手のほとんどは大学から始めているので、努力次第で大学日本一を狙えること。チームスポーツに憧れがあり、球技が好きだったこと。そして目標に向かって一緒に努力し合った高校時代のように、大学でもいい仲間をつくりたかったからだろう。

男子ラクロスは女子ラクロスと違い、タックルで思い切り体をぶつけてもよいルールがあります。柔道で鍛えた体幹の強さはディフェンスに適しているため、さらに磨きをかけてようと練習に励んでいます。

日本代表に選ばれ、米国でプレーした経験もある4人の法政OBがコーチを務めてくださっていますが、通常は学生が中心になって練習や運営を行います。平日は多摩川下流にかかるガス橋付近の河川敷で練習し、土曜日と日曜日は多摩キャンパスにある城山グラウンドで汗を流します。平日は講義が始まる前の早朝に練習を行うので、始発電車を通う毎日です。グラウンドは



2017年5月20日
成蹊大学とのチャレンジマッチ
(川崎球場)



2017年2月
つま恋カップで優勝したチームメイトと
(左端のNo.51)

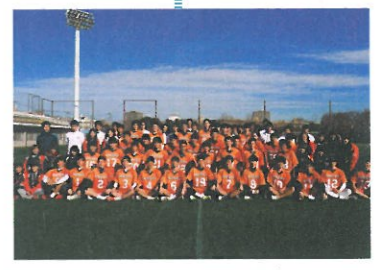
クレイ(土)なので、雨の時は泥だらけになります。昨年6月には、米国の名門ホフストラ大学のラクロス選手がホームステイで我が家に来てくれました。同じディフェンスの選手だったので、片言の英語で交流し、アドバイスをもらえたことが良い経験として生きていくようになります。尊敬する

エースの中村太郎さん(中会長の御長男)は同じ学部の先輩で、講義の合間にパスキャッチの練習をするなど、良くしていただいています。今年の3月には、明治大学との定期戦が行われる川崎球場に、妻と母を伴って応援に行きました。トップチームとの試合に初めてスター



成蹊大学との試合を終えて
(右から2人目のNo.55)

ティンクメンバーで出場した真成が、フィールドで躍動的にプレーするのを見てると、成長を感じ、勝利に貢献できたことでホッとしました。私もスポーツ好きな法政OBなので、真成がオランダのブランドユニホームを着て戦っている姿を誇りに思います。大学4年間、ベクトルを同じくして挑戦した仲間たちはまさしく生涯の財産です。ラクロスで培った心・技・体は、オランダ魂を成熟させて、未来で花を咲かせることができると信じています。8月からは、ラクロス全日本選手権大会に通じる関東学生リーグ戦が始まります。チームコンセンプトの「ONE」で一つになって、「打倒早慶」を合言葉に、部員全員が日々精進して進化しています。「地上最強の格闘球技」と呼ばれ、シュートは時速160kmに達するスピードでエキサイティングなラクロス。ぜひ一緒に応援していただけたら幸いです。



法政大学 男子ラクロス部
(城山グラウンド)

※()内は子どもの名前/学部

東京六大学野球春季リーグ戦応援記



後援会常任幹事 山田陽美 (直希/理工学部)

4月29日(土)に行われた、東京六大学野球春季リーグ対明治大学戦は、晴れて日差しがまぶしい絶好の観戦日和となりました。

この日は、HSC(法政スポーツコミュニティ)と後援会が共催した応援となったので、後援会会員の輪の中に、体育会の1年生部員や各国からの留学生なども含む、たくさんの方が加わった大応援団です。それぞれがオレンジ色のTシャツやバッグ、タオルを持って神宮球場の3塁側に集結しました。

三振を取り、アウトを取り、明治大学を0点に抑えていきました。打っては、2回に船曳海選手のタイムリーで1点を先制。点が入ると応援席では、隣の人と肩を組んで校歌を歌います。学生たちも後援会も、野球場での応援に慣れていない方が多かったので最初はぎこちない応援でしたが、応援団や周りの経験者たちに教えていただくうちに、どんどん声が大きくなり、声援のタイミングもそろっていきました。



7回に長谷川選手が打たれ、1点を取られて同点になりましたが、応援席では全員が勝利を疑うことなく応援を続けました。8回には相手選手の暴投で勝ち越し、2番手投手の熊谷拓也選手が0点に抑えた結果、2対1で今季初勝利をつかみました。

今年度のスローガン「PRIDE」王者復活への「第一歩」を実感した一日でした。

「大分県支部新入生父母の集い」報告



子どもと共に大学を知ろう！
大分県支部長 内田孝久 (倭史/文学部)

大分県支部では5月21日(日)に大分市内のレンブラントホテルで、新入生の父母を迎えて「新入生父母の集い」を開催しました。本年度大分県からの大学入学者は15人、うち10人の新入生父母に参加いただいて、全員で27人の集いとなりました。

大分県の校友会会長や副会長にも臨席いただき、あいさつと共に校友会に関する説明もしていただきました。大学からはグローバル教育センター事務部国際支援課の半妙宏一課長に出席いただき、学生生活の過ごし方や注意点、履修など、子どもにアドバイスしやすい内容を画像で分かりやすく説明いただきました。親として安心すると同時に、大学への親近感を得られたと思います。

「子どもの母校は我が母校」「進取の気象」「自由と進歩」「自由を生き抜く実践知」と法政にまつわるキーワード



の父母からは「参加して良かった」との感想もあがりました。最後は、大分県庁築市の茶葉を使った新発売の「ほろせい茶」の話題で締めくくり、和やかに閉会しました。

大分県支部では、毎年夏に行われるオール法政夏の集い(8月27日)で、校友会大分県支部の皆さんや後援会役員OBで組織されたオランダの会の皆さんたちと大集合し、一体となって懇親を深めます。子どもの入学という縁あって、出会った私たちです。大学を知ることによって、子どもと共通の話題を持ち、共に成長する。そんな後援会に育っていきたいと思います。今後とも会員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。